

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	<u>16</u>
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>3</u>
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	<u>7</u>
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の 見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>15</u>
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>41</u>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20年12月18日 開始 10時00分 ~ 終了 15時20分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 清川 _____ (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u> 氏名 <u>高橋 玲子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>宮田 奈々子</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について
外部評価は41項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1595400019
法人名	社会福祉法人 大形福祉会
事業所名	グループホーム清川
所在地 (電話番号)	新潟県東蒲原郡阿賀町京ノ瀬9 6 6 - 1 (電 話) 0254-92-0321
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成20年12月18日

【情報提供票より】(20年4月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.5 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(4月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81 歳	最低	73 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	県立津川病院、松村デンタルクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年に開所し、介護保険関連事業から保育園事業まで福祉を手掛ける法人である。ホームは高齢化率40%を超える阿賀町に、認知症ケアの拠点として町と共に地域住民のニーズに応えるよう日々取り組んでいる。建物は木造平屋建ての1ユニットで、同敷地内にはショートやデイサービスも併設されており、利用者が行き来している。ホーム内はととも広く、共有スペースはいつも利用者が集まってTVを観たり、話をして明るく和やかな雰囲気である。開所して2年目となり、理念の見直しや地域との交流、町との連携等、地域に根ざしたホームを目標に職員が一丸となり、サービスの向上を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	先回の評価結果を受け、全体会議にて話し合い具体的な改善に取り組んでいる。町と共に歩んでいきたいという願いをこめ、理念を見直したり、プライバシーについて取り組み改善に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、一人ひとり自己評価したものを全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、区長・町の職員・他事業所の施設長等計6名で開催しており、ホームの状況報告・活動内容・情報交換を行っている。地域行事の参加について話しあったり、ホームの役割等、意見をもらう貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を明示し説明したり、意見箱の設置もある。家族には意見を言ってもらえるように職員から声かけをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	区長の声かけで、柿や栗拾いをしたり、作品展へ出品等、地域の一員としての活動にも積極的に参加している。天気の良い日は散歩に出て、挨拶を交わしたり、野菜を頂いたり顔馴染みの関係である。しかし、ホームに気軽に来てもらえるような関係には至っていない。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時の理念を、具体的にし町・地域とともに歩んでいきたいという管理者の強い思いから、平成20年4月に「ほっとできる我が家であり、町民とともにあり続けるホームでありたい」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議時に理念を意識し、管理者から職員に伝えたり、玄関に掲示し、理念の共有・実践できるよう取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	先回の外部評価で指摘があったホームの理念について、区長を通して地域行事に参加し啓発したり、ホーム便りを回覧して理解の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩で挨拶したり、農作業を手伝ってもらおう等日常的に交流している。地域の祭りや敬老会・どぶ掃除等に積極的に参加しているが、地域の方が気軽にホームに立寄りやすくなる関係には至っていない。		グループホームを理解してもらえる良い機会なので、イベントを開催したり、ボランティアの受け入れ等、町・地域と協働して交流に努めることを期待したい。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より評価の意義を説明し、事業所の質を再確認するとともに改善策について全職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町の関係者や地域の方・関連機関職員・利用者で開催している。ホームでの利用者の状況や活動報告を行い、意見をいただける貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に地域ケア会議(行政・医療関係者・福祉関係者)に参加し、町の担当者と連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。また「認知症サポーター講座」を役場職員と計画しており、地域の認知症高齢者ケアの拠点としての取り組みを行う予定である。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法や権利擁護の研修を受講している。そして、職場内研修を行い、全職員で学ぶ機会を設けている。また、職員会議時に虐待について話し合い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、お手紙・ホーム便り・出納表を郵送している。また、支払いは直接ホームに来てもらうことになっているので、その時に活動内容や暮らしぶりを伝えている。個々の状態の変化があった場合は家族に電話連絡を行っている。職員の異動はほぼないが、あった場合は家族に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、職員が家族に声かけをして意見や要望を引き出す取り組みをしている。また、運営推進会議でも利用者に出席してもらい、意見を表す場を設けて運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め、職員間で何でも言い合える良い関係が出来ている。主任が職員意見をまとめ、毎月の職員会議にて時間をかけ、意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度より、運営者は利用者のダメージを防ぐために異動は極力行わないように努めている。代わる場合は、引き継ぎの徹底と環境変化に配慮し、利用者へのダメージを与えないよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備しており、いつでも職員が見れるようになっている。職員はサービスの水準を確保するために日頃より問題提起したり、利用者の状態に応じて、適宜見直しを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のために個別に相談に乗ったり、研修は積極的に参加できるように出勤扱いで手当てを出す等配慮している。また、職員の努力・実績を評価できるように個々の職員と話し合う機会を設け、目標を持って働けるように取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・職員ともに交流の必要性を感じているため、少しずつではあるが法人内他ホーム職員との交換研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。しかし、町には他にグループホームがないため機会がない。		サービスの質の向上のために、他地域のグループホームや町の介護施設との交流等計画しているので、実践できることが望ましい。また、地域ケア会議を通して、ネットワークづくりや研修に取り組みを期待したい。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を設置し、順番に休憩する時間を確保している。運営者は定期的に事業所を訪ね管理者の話を聞き、言い合える良い関係ができています。管理者はいつでも話せる環境を作り、ストレス軽減に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に根ざしたホームに入居を希望して利用される方がほとんどであり、家族と話し合い、体験入居を勧め納得してサービス利用ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす中で、料理の仕方や畑仕事を教えてもらったり、相談にのったり、冗談を言って笑ったり、楽しみながら支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、家族に状況報告したり、利用者の居室で家族・利用者がゆっくり過ごせる配慮をしているが、定期的に家族が訪問する機会が少ない。		家族の存在があっこそ、ホームにおいても穏やかに暮らしていくことができるということを家族に伝え、利用者と家族の繋がりが保てるように、ホームの役割を再確認して利用者を支えていくことを期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者から希望・意向を傾聴の姿勢で把握し、ケアプランに反映させている。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用して、有する能力を發揮し安心して暮らせるように、一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握と情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・関係者に参加を声かけし、その人らしい生活が送れるように職員の意見も取り入れて、本人・家族の意見やアイデアが反映された介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月おきに職員がモニタリングを行い、また3ヶ月おきにケアマネージャーもモニタリングして改善策を話し合っている。状態変化時は現状に即した新たな計画を作成している。半年位をめやすに見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩・買い物・自宅への外出やかかりつけ医の通院支援等、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に唯一の大きな病院がかかりつけとなり受診している。大半は職員が付き添い、利用者の状態を医師へ情報提供し適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時は24時間対応の協力病院を確保している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内で重度化や終末期に向けた指針を作成している。ホームでできることを明確にしておき、利用者の状態に応じて段階的な支援を行っている。重度化の事例もあり、利用者・家族・かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけや対応について勉強会を設け学んでいる。個人情報について、ファイルは利用者の目につかない所に保管する等工夫し、プライバシーを確保している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩に出かけたり、一人ひとりのペースや希望を大切に、メリハリを持って日々を送れるよう柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業を一人ひとりの好みや有する力に合わせて一緒に行っている。柿もぎや栗拾いに出かけ、それを干したり、調理し食事を季節感や楽しみのあるものとしている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しオムツ・パッドはできるだけ使用しないように定期誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。また、ソファを椅子に変えることで立ち上がり動作がスムーズになり、トイレでの排泄が可能になった事例もあるため日頃より工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、ほぼ毎日入浴できるよう支援している。利用者同士で入ったり、入浴剤を入れて楽しみな工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯・畑仕事・草むしり等、本人の生活歴や得意な分野を活かした役割があり、能力に合わせ自立支援をしている。外出支援は温泉保養施設や外食を計画し、個々の役割を活かし、楽しみ・気晴らしになるよう機会を確保している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材・日用品の買い物、散歩等、希望に沿って日常的に外出を支援している。通院の帰りに利用者の希望で個別の外出にも対応している。また、月に1回は全員で出かけ外食を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、会議等で権利擁護や身体拘束について学ぶ機会を設け、全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	会議にて全職員が弊害を理解している。外出したい方がいる場合は、利用者に寄り添い、工夫を重ね鍵をかけないケアに取り組んでいる。無断外出の際でも近所の方が連絡をくれる等地域との連携体制ができている。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し、予防策を検討している。1ヵ月後に会議で対応策の評価を行い、一人ひとりに応じた事故防止の共有・徹底に努めている。また、歩行レベルを上げたり、ADLの低下を防ぐように職員と話し合い、工夫している。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を職員全員が受講し、マニュアルに応じた訓練を行い、周知・徹底に努めている。併設施設の看護師が来て勉強会を開き、学ぶ機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と合同で定期的に避難訓練を行っているが、昼のみである。地域に訓練の参加を呼び掛けたり、併設施設との連携をしっかりとできるように密な訓練計画を立てている。		災害時の対策として防災セット・備蓄の準備は不可欠である。いつでも持ち出せるように、わかる場所にまとめておくことが望ましい。また、昼夜想定した訓練の実施の予定があるので予定通り進めることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量・水分量のチェックをし、調整している。お茶は、決まった時間以外でもいつでも飲めるように用意されている。水分制限がある方は、職員が配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には手作りの作品・写真等が飾られ、明るく家庭的な雰囲気に配慮している。ソファやベンチが廊下に設置され、仲間同士や一人で休みたいときに過ごせるよう工夫をされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室にはベッド・洗面台が設置されている。家族の写真や手作りのプレゼントが飾っており、筆筒等馴染みのものを自由に持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		